

トレジャリー・マネジメント・システムの実装と活用

はじめに

ここ数年、日本でもトレジャリー・マネジメント・システム(TMS)に対する意識が広がってきている。本シリーズでは、「TMSによって何が実現できるのか」をテーマとして、第一回目の本稿では「TMSの定義と機能の概要」について述べ、第二回目以降、企業が抱えるさまざまな課題に関して、TMSにてどこまで対応可能かを順次述べていく(注)。

TMSの定義

一般的にTMSは、CMS(Cash Management System)にリスク管理の機能を加えたものとして認知されているが、弊社では、TMSをより広い概念として捉えている。具体的には、トレジャリー・マネジメントとは、本質的にはC/F(資金)を管理することとの視点に立ち、次のように定義している(左図)。

キャッシュ・マネジメントのプロセスをより効率化、最適化するために金融商品を自在に活用し、客観的な手法による評価をベースにリスク、コストの最小化を行う一連の活動

まず、「日々の業務での支払い(AP)および受取(AR)に伴う資金繰りを如何に管

柳 洋二郎

サンガードアジアパシフィック
ディレクター・トレジャリー・ソリューション

理するか」がスタートポイントになる。理想的にはERPシステム等から日々のC/Fの予定を一元的に入手し、銀行からの口座異動明細と合わせ、資金の需要予測と過不足を分析する。この結果を受け、フロントでは、資金不足の場合は資金を調達し、余剰な場合は運用を行う。資金の調達、運用を行う手段は日々進化しており、システムによるサポートが、より有利な手段を選択できるかに直接影響してくる。続いて、フロントにて約定したさまざまな金融商品取引に伴うコンファメーションや決済、入出金の確認(リコンサイル)等のバックの業務をサポートする必要がある。日本版SOX法の流れから、より一層のコンプライアンスの遵守が求められているが、規制の有無とは関係なく、フロントの行った取引を確実に決済すると共に不正な取引の有無をチェックすることは必須要件である。一連の業務が終了すると、ミドルでは最終的なポジションに対し、流動性の分析、市場リスク、信用リスク等が妥当であるか否かの評価を行う。過度のリスクが存在すると判断されれば、フロントに対しリスクを軽減する取引の実施を求めることになる。

非常にラフなフローではあるが、以上の一連の流れをサポート可能なシステムを弊社ではトレジャリー・マネジメント・システムと位置付けている。一点補足すると、TMSは決して何でも自前で言うということではない。金融機関や外部ユーティリティが提供するさまざまなサービスは有効に利用すべきであり、代替が困難なサービスも多い。TMSはこれらのサービスの果実を統合的に管理できる仕組みと捉えるべきである。

TMSの機能概要

弊社ではTMSの機能をコア機能、拡張機能、先進機能の三つに分類して考えている。

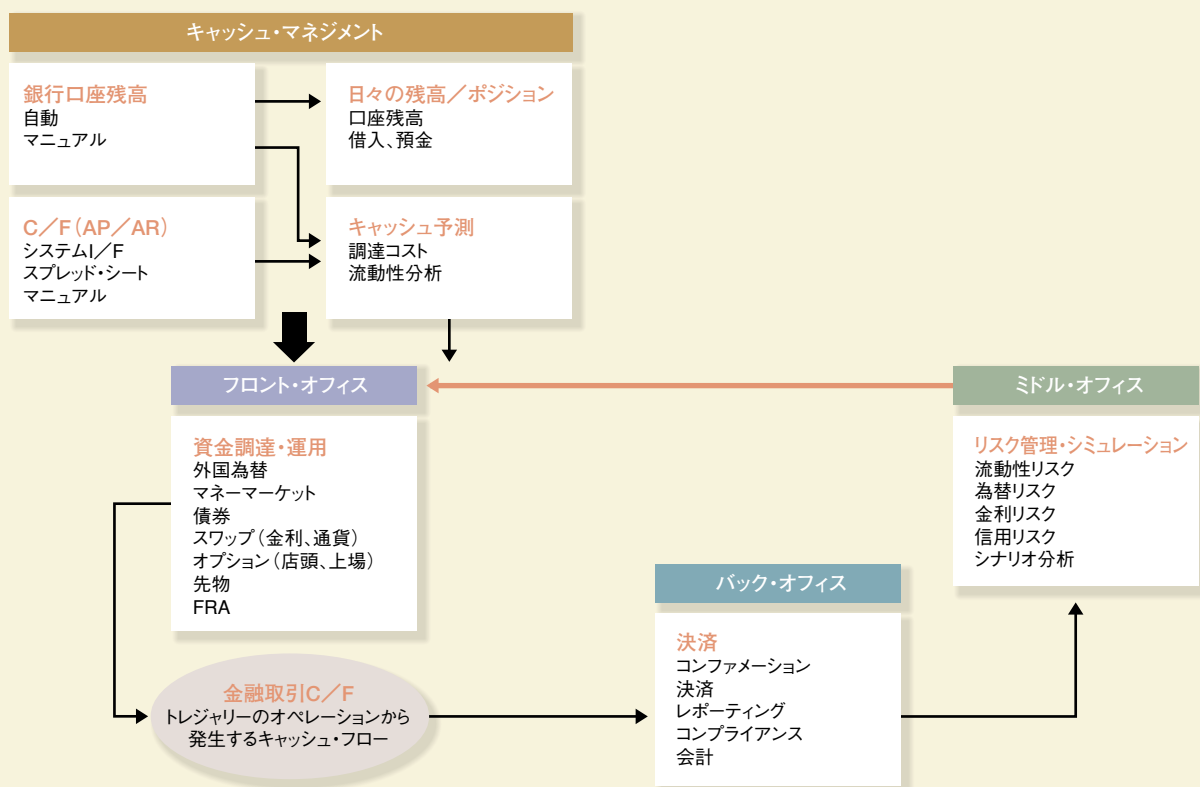
まず、コア機能としてキャッシュ・マネジメントおよび調達、運用のための金融商品のサポート、資金・証券決済、会計仕分けの作成が挙げられる。

● キャッシュ・マネジメント

予定C/Fの取り込み●銀行からのステートメント取り込み(残高と異動明細)●残高および予測キャッシュ・フローの表示(切り口と期間)

● 金融商品サポート

短期資金調達(CP、CD、融資、REPO、為替等)●長期資金調達(株式発



行、債券発行、融資等)●短期資金運用 (CP、CD、預金、REPO等)●長期 資金運用(株式、債券、預金等)●ヘッジ (為替、SWAP、先物、オプション、クレ ジット・デリバティブ等)

●資金・証券決済

コンファメーションの発行、マッチング●銀行CMSシステムとの接続●各種ユーティ リティーとの接続(SWIFT、ユーロク リア、全銀等)

●会計仕分

各種会計基準への対応(IAS、GAAP等) 同一システム内での複数会計基準への対応 次に、拡張機能としてインハウス・バンキン グとリスク管理機能が挙げられる。特にイ ンハウス・バンキングは複数の機能の組み合わ せにより実現されるサービスであることは留 意すべきであろう。

●インハウス・バンキング

社内融資、預金●社内為替、外部為替の集 中化●ネットینگ●支払代行●マーケット・デ ータ(金利、為替レート、価格等)の提供

●リスク管理

マーケット・リスク(金利、為替)管理●信用リ スク管理●シナリオ分析●リスク損益分析 最後に先進機能であるが、これは目新し い機能ということではなく、むしろ、既に実 現されているコア機能と拡張機能を組み合 わせ、新しいサービスとして提供することを

目指している。先進機能で最も注目すべき ことは、サービスの質の変化である。コア機能 や拡張機能の段階では、財務部はコスト・セ ンターであり、如何に効率的なオペレーション を行いコスト削減に結びつけるかを主眼にし ている。しかし、先進機能として弊社が考え る機能は、財務部をプロフィット・センターと 位置付け、企業が成長するためのツールとし て、資金の観点からより戦略的、機動的に サポートするサービスを提供することを目 指す。このエリアは今後発展していく分野で あるが、いくつか挙げるとすると、社内CMS (プリーリング●自動融資、自動預金)、グルー プ内決済のネットینگ、支払代行に伴う外 貨調達等が挙げられる。

●社内CMS

仮想口座(残高管理、付利、異動明細生 成等)●プリーリング(目標額、階層(順序)、 最小異動額等)

●グループ内決済のネットینگ、支払代行に伴う外貨調達

仮想口座(残高管理、為替引きなおし、 自動入出金等)●不足外貨の自動貸出● 余剰外貨の不足外貨への転用

TMSに課せられた使命として、「新しいサ ービスを如何に短期間でサポートするか」が 今後ますます重要になるだろう。

(注) TMSソリューションの詳細に関しては www.sungard.com/japanを参照ください。